

2017年11月25日に行われました、瞳みの先生の講演会には、多くの皆様にご参加いただきました。

瞳みの先生講演会報告

ザ・タイガースで4年活動したあと、京都へ戻り受験勉強し、慶應義塾大学に入学。入学後2年経ったときに「このあと「2年」「2」という数字がキーポイントになっていくのですが—大学の勉強だけでは語学の勉強が物足りないし、できるようにならないと感じ、当時から中国語の教育では有名であった日中学院のすずらん通り内山書店2階にあった校舎へ中国語を学びに行くことにしました。当時倉石武四郎先生が学院長、クラスの担当は李淑琴先生で、別科の夜間6時から隔日、週3日ほど約2年強通っていました。発音で「おかしい」と言われることがないレベルになれば、留学などを考えるようになったのは学院のおかげだと思います。

中国語に興味をもったのは定時制高校の頃です。第二外国語として、通っていた京都府立山城高校2年生の際に自由科目として導入されたのをきっかけに、祖父や父の頃と違い平和な状況下で外国語を学ぶチャンスに恵まれたのだから外国語を学ぼうと思ったわけです。とはいえ、時代としては中国も文化大革命という閉鎖された時期で、大陸にはいつ行けるのかわからない状態でした。

もともと裕福な家に生まれ、母親の逝去後、ばあやに非常に可愛がられ、甘やかされて「ぼんぼん」として育ちましたが、名古屋に引越し、後見人などないために小学校4年生くらいではあったのですが、しっかりしなければならなくなりました。が、ずっと甘やかされて育ったので、就学年齢に達した頃はまだ幼稚で、学ぶということが分かっておらず、3、4年生になって初めて学校に来ていることを認識したくらいでした。2年生の頃は牢獄に入れられたにも等しいくらいの気持ちで、トラウマとして残ったほど、学びに対する意識が低かったです。中学で工場へ働きに出て、定時制高校に進み、そこで第二外国語＝中国語に出会い、全員初めて1から学び始めることもあってか、学業というのはこういうことなのかなというのがようやくわかりました。そのためこの第二外国語＝中国語に非常に感謝しています。中国語に出会えていなかったら、おそらく学校なんて行っていなかったと思うし、どうなっていたらと思う中で、中国語は自分にとって救世主と言っていい存在だと思います。

そのようにして定時制で中国語に興味を持ちましたが、定時制の3、4年生くらいのときに音楽にも興味を持ちました。同級生に最近ドラマで大活躍の岸部一徳がいて一緒に音楽をやることになります。

今病床にある弟の岸部シローもメンバーとなりましたが、森本太郎や

学好中国话、为日中友好起桥梁作用！

日中学院報

2018年 2

毎月1回1日発行 第515号

編集発行人・片寄浩紀

定価1部100円／1年1000円(送共)
郵便振替 東京 00100-38184

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3
TEL 03-3814-3591 FAX 03-3814-3590
URL <https://www.rizhong.org/>
E-mail info@rizhong.org



2017.11.25 瞳みの先生講演会

A 先生の新語コーナー



Taobao cūn “淘宝村”

アリババの電子商取引モール「淘宝网」が中心的な産業になっている村。具体的には全戸数の10%以上がネットショップを営み、全体の売上高が10000万元以上の村を指す。馬雲氏が1999年に創設したアリババは中国の電子商取引最大手。昨年、全国の淘宝村の数は2100を超えた。浙江、広東、江蘇がベスト3にランクされ、この3省で全体の68%を占める。近年、商品の多様化、販売業者の企業化、サービスシステムの高度化により、売上高が伸びているという。(A)

加橋かつみ、沢田研二という、メンバーに恵まれて、互いに頼りながら音楽をやっていたわけです。

2013年12月にザ・タイガース再結成のコンサートを開きましたが、それがここから近い東京ドームで、日中学院、東京ドーム、そして今日の講演と、ここ水道橋及び飯田橋という地には本当に縁があると「因縁」めいたものを感じます。当時は音楽の道で食べていけないかと思って、上京し、4年と少し活動したのですが、途中辞める人間も出たりしているうちに、今度はこのままでやっていけるのかという思いになり、タイガースを辞めることになるときは、次の人生における確実なものを身につけなければいけないだろうといういろいろ考え、「今まで勉強してこなかったから勉強しよう」、「学問なら死ぬまで身から離れることはない」と思い立って、学校に行きなおすことにしました。そうして、1972年に慶応大学へ入学し、学部4年、その間に日中学院へ通い、その後修士2年、博士3年と続けました。修士2年のときに慶応高校からの要請で高校の漢文の教師をやり、2年目に専任教師として仕事をすることとなりました。これ以降、漢文をずっと教え続けます。その後、ニクソン訪中から田中角栄による日中国交回復、中国の改革開放政策となり、念願の中国へ行ける機運が高まり、中国留学へ応募しました。1年目にはかないませんでした。2年目にやっとそのチャンスを得て、北京語言学院(現北京語言大学)と北京大学へ2年間留学をします。憧れの地ではありましたが、当時はまだ文革の名残が色濃く残っていたからか、暗いモノトーンな雰囲気でした。自分が思い描いていた唐の王朝、杜甫や李白のいた百万の都「長安」とはかけ離れており、少々ふてくされて、留学中はプルーストの『失われた時を求めて』などの小説を読みふけり、中国語への興味を失ってしまいました。とはいえ、慶応の正教員として学校派遣で留学し、帰国後は中国語を教えなければなりません。高校で教えるのは、はじめは嫌でした。が、慶応の高校生がスマートで大人びていることも手伝ってか、みな自分を一人の人間として

扱ってくれ、生徒から教わることも多く、こちらが授業料を払わねばならないと思うぐらい、学ぶことがたくさんありました。そんなわけで辞めよう、辞めようと思いつつながら、漢文、つぎには現代文、古文そして最後には中国語を教えるという33年間の高校教員生活を続けました。さらに中国語の教科書も出版し、今日こうして皆さんの前でお話できるなど、中国との関係はずっと途切れることなく、非常に幸せなことだと思っていますし、ありがたいことだと思っています。漢文や中国語を教えた卒業生は数多くいるのですが、その中には政治関係も含め著名人となる者も出て、非常に誇らしく思います。

今年12月に台湾で自身のバンドによる公演を行うのですが、台湾や大陸では、文化大革命などのため、ローリングストーンズやビートルズを知らず、タイガースももちろん知らないという完全アウェーな状況です。タイガースを知らない海外において公演をすると、タイガースの持ち歌以外の歌を歌っても「それがどうした」ということになり、成功は難しいと思えます。そのため「ほかの人とは違ったことをやろう」と中国語の曲を日本語と中国語、日本語の曲を日本語、中国語あるいは英語で歌おうと考えました。(配布資料を見ながら)その例として、アメリカのジョン・P・オードウェイの作った『Dreaming of Home and Mother』があります。日本で『旅愁』という曲になり、さらに日本に留学していた中国人李叔同が中国語で『送別』という歌にしていますが、この歌はアメリカでは知る人がごく少数で、日本では若い世代ではあまり馴染みがない曲になってしまいましたが、中国で『送別』は意外にも老若男女を問わず知られていて、中国語で歌えば皆が歌ってくれます。つまり、十数億の人がこの曲を知っているわけです。私としてはこういういい曲はぜひ皆に知ってほしいと思い、英語、日本語、中国語で歌うことにしました。ただ日本語の2番の曲はもとの歌詞があまり好きではないので、自身で変え、また中国語の歌詞も新しく作詞し直しまし

た。歌詞のお話をしますと、英語、中国語の歌詞において美しいのは脚韻をきちんと踏んでいることです。自分で作詞する際もこの脚韻に気をつけてみました。(英語と日本語、中国語で歌唱)。

今度の台湾公演では『あおげば尊し』を歌う

予定ですが、これは台湾では卒業式で必ず歌う馴染みのある曲で、かつてSMAPが歌ったこともあります。その際は従来の古い詞で歌いましたが、現在日本では歌われなくなってしまいましたね。台湾では(新しい詞にしたものを)3カ国語で歌う予定です。(次号へ続く)



日中学院の教室に掲げられている、“学好中国话，为日中友好起桥梁作用！”というスローガンをご覧になったことは、ありますか。これは、日中学院がとても大切にしてきた言葉です。このスローガンについて昨年逝去された、江尻健二元副学院長が、以前学院報に寄稿された文章をここにご紹介します。江尻先生をしのぶ会は、2月18日(日)に行う予定です。ご参加いただける方は、日中学院までお申込み下さい。

日中学院のスローガン “学好中国话，为日中友好起桥梁作用！” について

江尻健二 (倉石中国語講習会第37期生、元日中学院副学院長)

私は1960年に学院の前身の倉石中国語講習会に入学して、1994年にやっと卒業したものです。

世の内のどんな学校でも、会社等でも、その組織の作られた目的などを記した校是、社是があります。日中学院にも、それを示すスローガンがあります。

今日お渡しした「日中学院・関係簡史」は、1931年9月18日に、日本軍によっておこされた「満州事変・柳条湖爆破」からはじまっています。日中学院は、日本と中国の悲しい不幸な歴史の反省の内から生まれてきたのです。

中国は、長い他国からの侵略をはねのけ、みずからの力で、1949年の10月1日に、「中華人民共和国」を誕生させました。

その直後、日本人と在日中国人によって「日中友好協会・準備会」が組織されました。そのスローガンは「日本の中国侵略を反省し、日中不再戦を誓う!!」といった崇高なものでした。1950年には、その文化事業の一環として「中国語講習会」が創られ、その責任者に倉石武四郎先生が就任されました。

しかし、その事業をすすめる内で、「人民日報」を、漢文式によむクラスをつくる話ができました。つまり政治的な論文や記事を、日本人が、中国古典などを読むのに用いた返り点や送り仮名を

つけてよむということなのです。

これは、「中国語は外国語であり、音を重視してよむ」という倉石先生の考えに反するものなので、倉石先生は、その責任者を辞すことを申し出ました。いろいろ討論はあったのですが、それならばと、日中友好協会が、中国語講習会を倉石先生に全面的に委任したため、1951年の4月、神田三崎町の東方学会ビルで新たな発足をしました。それをバックアップするため、その連絡場所として日中友好協会・東京華僑連合会・中国留日学生同学総会・内山書店・東大中文研究室・中国研究所があたりました。このときの精神は、以後もしっかりひきつがれていきました。

講習会の経営は大変なものだったのでしょうが、「新生中国」の息吹が伝わる内、講習会もいきいきと授業をすすめていきました。

50年代の「倉石中国語講習会」のポスターには「ローマ字を用いて、耳と口から使えるコトバとして学びます」がしるされ、苦しい経営をのり切るために、受講生、講師、倉石先生の三者により、運営がつづけられ、授業料も講師給料も決められ、事務は受講生が交替で行っていました。これも、新生中国が「人民」を主にした動きから学んだものでしょう。1955年には、

受講生の手で、「壁新聞」（橋Ⅲ 55 頁）が、愛らしいさし絵入りで、教室の壁に貼られています。60 年代のある時期倉石先生は、初級から 2 年間一つのクラスを担当され、その間板書には一切漢字を用いず、拼音で通されたことがありました。

今日、沖縄への米軍のオスプレイ強行配備で、その存在が問題になっている「日米安保条約」が再延長となった 1960 年には、講習会も連夜その討議をすすめ、長谷川良一先生などを先頭に国会へのデモをくり返しております。その動きの中で、倉石先生は魯迅の言葉“**他人を奴隷としたものは、他人の奴隷となる**”を引用され「**安保闘争一奴隷精神とのたたかいに勇氣と忍耐をもって一**」とのメッセージ（橋Ⅲ 70 頁）を発しておいでです。

1961 年の 4 月、「倉石中国語講習会」は、1954 年に倉石先生が「善隣学生会館」（「日中友好会館」の前身）の理事に就任されていた関係で、会館に創立以来 10 年目にして、はじめて一日自由に使える教室をもつことになり、これにはじめて事務の専従者をおくことになるのです。

その 2 ヶ月後の 6 月、「倉石中国語講習会創立 10 周年祭」が千代田公会堂に 1,000 余人の人々を集め、催されております。

この時のスローガンは、「**中国語は日中友好の力、日中国交回復をかちとろう!!**」でした。

その 10 周年祭の式典の朝、実行委員会は「会館」に住む華僑青年から「善隣学生会館理事会」により、華僑寮生への「会館」からの立退き訴訟がおこされていることを訴えられました。強制執行臨検がおこなわれようとするなかで、倉石中国語講習会自治会、日中友好 18 団体が発起人となり「後楽寮を守る会」が結成されました。講習会では、講師、講習生全員が授業を中断しながらも抗議活動にたちあがりました。その結果、1962 年 3 月には、和解が成立し、日本軍国主義の中国侵略の象徴である善隣学生会館（その前身は「満州国留日学生会館」→「満州国留日学生補導協会」→「中華学友会館・後楽寮」）が日中友好のセンターとしての第一歩が

ふみだされたのです。その闘争の中で使われたスローガンは「**後楽寮の中国人追い出し反対!!**」、「**再び長崎国旗事件を起こすな!!**」でした。

その 2 年後、講習会は中国から「外文出版社代表団」、羅俊先生、劉徳有先生を教室におよびすることができました。

その歓迎準備をすすめる内で、歓迎実行委員会の内で考え出されたスローガンが「**中国語を学んで日中友好のかけ橋になろう!!**」だったのですが、その中国語訳がうまくできません。当時、通訳班を担当されておいででした、故大塚浄先生にお願いしてできたのが「**学好中国語、為日中友好起桥梁作用!!**」でした。早速、倉石先生におみせして、称賛のことばをいただきました。

この歓迎会の内で、劉徳有先生が、お話された「中国語学習について」（橋Ⅲ 79 頁）はその後、その録音をもとに教室で学ばれつづけました。そのスローガンは、今も各教室に、書道班の同学の手で書かれ、現在にいたっております。

日中国交回復 40 周年を迎えた今日、日中関係は冷えきっております。今こそ、日本と中国・アジア諸国・アメリカ等の間でおこった歴史を学び直す必要があるのではないのでしょうか、このスローガンを活かすために!!

2012.10月27日

※参考資料：「中国語」96年7、8、9月号（専家漫筆）、「侵略地図」・「老日中クラブ日中友好の思い出、日中友好会館・想い出へんぺん」

日中学院報 453 号（2012 年 12 月）より転載

「江尻さんをしのぶ会」のご案内

日時：2月18日（日）14:30～16:00

場所：日中学院の教室

会費：お一人1,000円

（当日受付にてお願いします。）

参加される方は事前に日中学院事務室までご連絡下さい。Tel:03-3814-3591

締切：2月10日（土）

※お花、供物、香典などはご辞退します。

中国のDVDを観よう!

昨年図書室に中国映画・ドラマのDVDが多数寄贈されました。今回は紹介しきれていなかった分をまとめてご紹介いたします。ご覧になりたい作品がありましたら、ぜひ図書室へ!

【映画】

- ★《父子》 監督：譚家明 主演：郭富城・楊采妮
※第43回台湾金馬賞最優秀作品賞、第19回東京国際映画祭最優秀アジア映画賞等受賞。ギャングにのめりこみ、家庭を顧みない父とその息子の愛憎を描く
- ★《求求你，表扬我》 監督：黄建新 冯小刚
主演：王志文・陳好・范偉
- ★《不再让你孤单》 監督：刘伟强 主演：舒淇・刘烨
- ★《老井》(邦題：古井戸) 監督：吴天明 主演：张艺谋 梁玉瑾
- ★《向日葵》(邦題：胡同のひまわり) 監督：张杨 主演：孙海英・陳冲

【紀行ものドキュメンタリー】

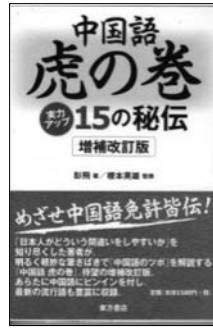
- ★《中国行・江苏之旅》
- ★《中国行 浙江之旅》
(日本語・中国語字幕切替可) ※江蘇省と浙江省の名所旧跡を詳しく紹介しています。

【連続ドラマ】

- ★《上海往事》24集电视连续剧 导演：孙卓 丁亚民
主演：刘若英 赵文瑄
※民国時代の女流作家、張愛玲の生涯を描く
- ★《一个女人的史诗》34集电视连续剧 导演 夏钢
主演：赵薇 刘烨 孙海英 原著 严歌苓
- ★《神雕侠侣》(2006年) 41集电视连续剧 导演：于敏 原著：金庸 主演：黄晓明 刘亦菲
- ★《画魂》30集电视连续剧 导演：关锦鹏 主演 李嘉欣 刘烨
※清朝末期に生まれフランスを拠点に活躍した女流画家、潘玉良の数奇な生涯を描く
映画版「画魂 愛いつまでも」(主演：鞆俐)も図書室にあります。

<今月の新着図書から>

- ★『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝』増補改訂版 彭飛 著 榎本英雄 監修 東方書店



中国語を勉強していると文法や表現など、分かっていことが増えてきます。この本は、中級レベルの日本人学習者が間違えやすいポイントをしっかり押さえ、辞書を引いても分からない箇所をわかりやすく解説しています。「そうか!ここではそういう風に使うのか」と、すっきりと理解することができます。中級の壁を乗り越えたい人におすすめです。

<そのほかの新着図書>

- ★『知日 第47期 源氏物語、一本満足!』
茶乌龙 主編 中信出版社
- ★『なぜ中国人は財布を持たないのか』
中島恵 著 日本経済新聞出版社
- ★『出土遺物から見た中国の文明 地はその宝を愛しませぬ』 稲畑耕一郎 著 潮出版社
- ★『毛沢東、周恩来と溥儀』
王慶祥 著 松田徹 訳 科学出版社東京
- ★『古代中国の語り物と説話集』
高橋稔 著 東方書店
- ★『ドリル式 知りたいことがしっかりわかる実践中国語文法 改訂版』
三瀧正道 著 朝日出版社
- ★『新版 口を鍛える中国語作文 語順最速メソッド 上級編』 平山邦彦 著 コスモピア
- ★『ことばの散歩道Ⅶ 成語・ことわざ雑記』
上野恵司 著 白帝社
- ★『最短最速で上達する中国語学習法 ビジネス中国語なんて超簡単!』
高橋勇進 著 CCメディアハウス

<寄贈>

下記の方より、図書室に寄贈がありました。御礼申し上げます。

- 匿名希望様より
- ★『知日 なぜ中国人は日本が好きなのか』
- ★《季羨林 读书与做人》
- ★《茧》(張悦然 著)

<お知らせ>

2/12(月)(建国記念日の振替休日)は全校休校のため、図書室はお休みです。

2 月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
				1	2	3
4	5	6 ●本科・日本語科 合同弁論大会	7	8	9	10
11	12 ●祝日	13	14	15 ●日本語科 春節 パーティ	16 ●春節 ●本科3次入試 受付締切	17
18 ●本科3次入試	19	20 ●本科3次入試 合格発表	21 ●本科4次受付 開始	22	23	24
25	26 ●藤堂先生生日	27	28 ●日本語科 授業 終了			
●3月の日中学院 ・1日…日本語科 春休み(～4/9) ・2日…日本語科 成績発表 ・6日…本科 授業最終日 ・7日…本科 春休み(～4/9)		・12日…本科 成績発表 ・15日…本科・日本語科 合同卒業式 ・16日…別科公開 18:45～(入門・基礎) ・17日…本科4次入試 ・23日…別科公開 18:45～(入門・基礎)		・24日…本科 補欠入試 公開 13:00～(入門・基礎) ・25日…中国語検定試験 ・26日…別科268期授業最終日 ・27日…春期集中講座(～31日)		

日中学院日本語科では、中国語本科との交流授業の他にも、様々な課外活動を行っています。
課外活動の感想文を日本語科1年生に寄稿して頂きましたので、ご紹介します。

こんにちは。私は2017年4月に入学した留学生の武岳です。

11月17日、私たちは東京ディズニーシーへ行きました。私はディズニーシーに行くのは初めてでしたので、とても楽しみでした。

JRを降りると、200メートルぐらい歩いて、ディズニー専門の列車に大体10分ぐらい乗車しました。とても交通が便利だと感じました。

遊園地の中は人が多く、遊ぶ施設も多かったです。最初に、「センター・オブ・ジ・アース」に乗りました。二時間も並んで、大変でした。でも、怖いキャラクターをたくさん見て、とてもおもしろかったです。最後は上から下へ急に落ちました。とても興奮しました。次はパスをもらって、もう一度乗りました。

遊園地の中は、おいしい食べ物や飲み物もたくさんありました。たとえば、スパイシーチキ

ンレッグやスモークレッグ、それからリトルグリーンまんです。リトルグリーンは高くないし、可愛いです。おもちゃみたいでした。味はあまかったです。

地中海エリアを通って帰るとき、たくさんの方がステージショーを見ていました。私は足を止めて、鑑賞しました。とてもおもしろかったです。

今回のディズニーシーの遠足はとても楽しかったです。でも、時間がちょっと短いので、来年の春もまた行きたいです。

